

目次

第31回大会開催にあたって・・・	1	大会プログラム・・・	5
第31回大会をお受けするにあたって	・・・1	新入会員の声・・・	13
開催校企画シンポジウム・・・	3	事務局からのお知らせ・・・	14
学会企画シンポジウム・・・	4	事務局からのお願い・・・	15

■日中社会学会第31回大会開催にあたって

日中社会学会長
首藤明和（長崎大学）

日中社会学会第31回大会が6月1日と2日、東京農工大学で開催されます。大会開催に向けてご尽力をたまわっております関係者の皆様には、改めてお礼を申し上げます。

今大会のプログラムもまた、たいへん充実した内容です。シンポジウムでは、モビリティ・スタディーズや人口学、ジェンダーなど、中国研究の最前線における方法や知見がテーマに掲げられています。また、中国の中日社会学会専門委員会の皆様も参加されるシンポジウムや、中国語を使用言語とした報告部会の設定など、大会運営において、さまざまな新しい取組みもみられます。

日中社会学会は、ディシプリン（社会学）とエリア・スタディーズ（中国研究）の交叉がもたらすダイナミズムを持っています。すなわち、個別具体的な、それぞれの歴史や文化などの文脈に即した知見（エリア・スタディー

ズ）と、文脈中立的で、さまざまなコンテクストに対して汎用性をもった知見（ディシプリン）の、これら相異なる知見のコンビネーションを通じて、絶えず新たなイノベーションがもたらされる展望をもっております。日中社会学会が誰に対しても居場所が開かれた学会として、そして、ディシプリン&エリア・スタディーズのコンビネーション&イノベーションのプラットフォームとして、今後もますます発展していくことを願っております。そのためにも、研究大会や機関誌など、会員諸氏の研究報告と交流の場が、今後もしっかりと息づいてまいりますことを心より願っております。

今回の東京農工大学大会での研究交流が、会員諸氏にとりまして有意義で得難い時間となりますよう、多数の皆様のご参加を心待ちにしております。

■第31回大会をお受けするにあたって

第31回大会実行委員長
聶海松（東京農工大学）

このたび、東京農工大学にて日中社会学会第 31 回大会をお引き受けすることになりました。東京農工大学は、明治 7 年の創基以来、今年で 145 年の長い歴史を誇り、その名のとおり農学と工学の二分野に加え、その融合領域にもフィールドを発展させ、一貫して自然と調和し文化的・経済的・環境持続的に発展し続けることのできる社会の実現という命題を掲げてきました。近年会員になられた方は、このような理系の大学で日中社会学会が開催されることを意外に思われるかもしれませんが、学会と本学との関係については、長年中国の人口問題等に関する研究に尽力され、日中社会学会の草創期より日中の学術発展に多大なご功績を残された本学名誉教授の故・若林敬子先生の存在なくしては語れません。ここでは、少し紙面を割いて若林先生についてご紹介させて頂きたいと思えます。

若林先生は、東京大学大学院教育学研究科教育社会学専攻で学ばれた後、厚生省人口問題研究所に入所、同研究所にて主任研究官、研究課長、研究室長等を歴任された後、1997 年に東京農工大学に赴任されました。人口社会学、特に中国の人口問題・人口変動に関する最先端のご研究、また環境社会学に関するご研究を一貫してお続けになられ、国内外における人口社会学・教育社会学関連の諸学会に席を置かれて要職を歴任されるなど、学術活動において大きな功績を残されました。若林先生の中国研究は 1979 年に訪中し、田雪原（元中国社会科学院人口研究所長）や上海人口学会のメンバーとの研究交流から始まります。それはまさに、先

生曰く 3 つのタブーからの復活（一人っ子政策の開始、53 年以降中国で排除されてきた社会学の復活、これまで何億いるかわからなかった人口統計の整備）が中国で動き出したタイミングで、先生の中国研究もこれらと「二人三脚で」スタートしました。1980 年日中社会学会創設時の会長である福武直先生は若林先生の中国研究における恩師であり、共に日中間の社会学交流の懸け橋として学会の発展に貢献されました。若林先生の研究姿勢は、何より実証的研究を重視し、現地調査を必ず自ら行い情報収集に努めるものでありました。そして、決して中国の人口政策の批判に立ち入ることなく、足でかせいで得た情報を徹底的に客観的に論じる研究姿勢によって、中国側の理解を得て、それまで誰も成し得なかったような調査協力を可能としたのです。70 歳になっても研究に対する情熱を持ち続け、積極的に異国調査に行き、第一線でご活躍されていましたが、2014 年 9 月現地調査中に中国北京で突然逝去されました。私も同行しており、急なことに大変なショックを受けましたが、現地で執り行われた葬儀では中国国内からゆかり深い方々が多数参列され、多くの弔辞・弔花に囲まれ、まさに人生をかけて日中学術・研究交流に身をささげ、学者としての姿勢を貫かれた先生らしい最期でした。

若林先生が東京農工大学着任からの 10 年間において、中国からの留学生を中心とした全修了生は 40 名を超え、私もその一人であります。先生が道を開かれ発展させてきた日中の学術交流の魂を継承し、現在農学研究院国際環境

農学部門で、持続可能な地域開発を視野に、人口・環境・食品安全等に関する社会的諸問題に関する研究に取り組んでいます。本学で日中社会学会が開催されることとなり、若林先生も大変お喜びになっていると思います。学会では、若林先生の著書や写真等の展示コーナーを設けますので、ぜひご覧頂ければ大変幸いです。大会実行委員長という大任が自分に務まるか不安でもありますが、会員の皆様のお力添えをいただき、先人の想いを引き継ぎ大会成功に向けて尽力して参りますので、何卒宜しく願い申し上げます。

■開催校企画シンポジウム

「日中における高齢化への対応 一

国家戦略と実態 一」のご案内

第 31 回大会実行委員長
聶海松(東京農工大学)

中国では、近年、人口の高齢化に関する研究が盛んに行われている。しかし、これらの研究は中国社会の高齢化や高齢者人口に関する社会問題を中心とした研究に留まっており、国が掲げる「在宅養老 90%」という目標に合致した介護サービスの需要実態や、政策の有効性に関する調査研究についてはほとんど行われていない。日本においても、今後中長期の課題として、政治舞台においても少子高齢化が国難として位置付けられる程、深刻さは増しており、まさに逃げ場よりも生き道を探っている時期にある。

中国では本格的な高齢者政策が始動したところであり、国家戦略と位置づけられた「医養結合（医療と養老の連

携）」政策や、長期介護医療保険制度が、モデル地域において試行されているが、実態に則した運用とは乖離したケースも多く、多くの課題が散見される。一方、日本においても少子高齢化への対応は喫緊の課題であり、互いの影響が絶大である両国において、国家戦略としてどのような政策が取られているのか、現場においてはどのような実態と課題があるのかを探求することを趣旨として、本シンポジウムを計画している。

持続可能な社会システム構築の実現に向けて、介護の環境整備において数歩先を行く日本と、産官学において養老サービス体系作りがほぼゼロからスタートといっても過言ではない起動期にある中国の、在宅養老を基盤としている両国において国家戦略と現場実態を議論する本シンポジウムは、リアルタイムな情報として、日中両社会にとって社会的に重要な意味を持つと考える。また、日本における高齢化の経験が、アジア論として中国にどこまで参考となるかという点についても議論の価値がある。

本シンポジウムは、国レベルでの高齢社会対策の現状と課題について、日本については佐々井司氏に、中国については馮文猛氏に講演を依頼した。佐々井氏は、国立社会保障・人口問題研究所で社会保障と人口問題に関する研究を行っており、若林敬子氏とは 2004 年科研費（中国における人口と環境-都市化と人口流動に関する調査と分析-）以来、共同研究を行ってきた研究者である。また馮文猛氏は、若林氏の門下生であり、現在は中国の國務院

発展研究センターで人口政策等を研究している。一方、現場レベルの現状と課題について、日本に関しては水野博達氏に介護保険制度に関連する講演を依頼している。水野氏は、特別養護老人ホームの事務長や施設長を歴任しており、その長年介護の現場に携わる経験をから、リアリティ溢れる講演が期待される。また中国については、前述の医療と養老を連携した高齢者介サービスの実態について、聶が講演を行う。

— 日中国家戦略 —

佐々井司 氏（国立社会保障・人口問題研究所）

「日本における高齢社会対策の現状と課題」

馮文猛 氏（中国・国務院発展研究センター）

「中国における高齢化社会対策の現状と課題」

— 日中現場実態 —

水野博達 氏（大阪市立大学共生社会研究会／高齢者介護事業アドバイザー）

「介護保険制度は、政府の〈介護責任免責の装置〉」

聶海松（東京農工大学）

「中国における高齢者サービスの現状と課題—医療と連携した在宅養老・介護を中心に—」

■学会企画シンポジウム

「社会主義的近代化推進期から転形期にかけての中国の女性、家族の変容」のご案内

坂部晶子（名古屋大学）

中国の家族制度の研究は多くは宗族と

いった中国社会が伝統的に保持してきた固有の体制が対象とされることが多かった。いっぽうで、現地調査が可能となって以降は、中国女性の社会進出の著しきや男性の家事参加なども注目されてきた。1950年代以降の社会主義的近代化の推進期から80年代以降の改革開放の転形期にかけて、中国社会の家族や女性は大きな社会変容を経験してきたといえる。わたしたちは「中国周辺領域における社会主義的近代とジェンダーに関する社会学・人類学的研究」と題する研究プロジェクトにおいて、転形期以降の中国の家族の変容や女性の生の経路について、それを分析する視点に役立つ議論や女性の生き方の多様性を実証的研究のなかから描き出していくことを企図して、調査研究を重ねてきた。本シンポジウムにおいては、この研究プロジェクトのなかから、中国第一線の家族社会学および女性研究の研究者をお招きし、成果の一端を議論したい。またあわせて、中日社会学会からもご登壇いただき、幅広い議論が行われることを願っている。本シンポジウムは、日本語による報告と中国語による報告がある。中国語の報告に対しては、日本語の訳文や資料等の提示を行う予定である。

日中社会学会第 31 回大会プログラム

開催日：2019 年 6 月 1 日、2 日

会場：東京農工大学（府中キャンパス）

（注）プログラムは一部変更となる可能性があります。
当日会場にて配布される資料でご確認ください。

6/1(土)		6/2(日)	
		9:00	受付開始
		9:15	自由報告Ⅱ
		10:55	(session C, D)
		11:00	自由報告Ⅲ
			(session E, F, G)
11:00	理事会 -1230		
12:00	受付開始	12:20	
13:00	開会式	12:30	理事会
13:10	開催校企画シンポジウム	13:25	
15:40	「日中における高齢化への対応 — 国家戦略と実態 —」	13:30	学会企画シンポジウム
15:50	自由報告Ⅰ		「社会主義的近代化推進期から転形期にか けての中国の女性、家族の変容」
	(session A, B)	16:00	
17:15		16:00	閉会式
17:25	総会		
18:25			
18:30	懇親会		
20:00			

6月1日(土)

12:00～ 受付開始 (2号館1階ロビー)
大会参加費：会員・非会員とも 2000円 (ただし学生は1000円)

11:00～12:30 理事会 <会場>本館 本-22

13:00～13:05 開会式 <会場>2-11(2号館1階)
開催校挨拶：聶 海松 (東京農工大学)
会長 挨拶：首藤明和 (長崎大学)

13:10～15:40 開催校企画シンポジウム <会場>2-11(2号館1階)
「日中における高齢化への対応 — 国家戦略と実態 — 司会 南 裕子(一橋大学)
発表者 佐々井 司(国立社会保障・人口問題研究所)「日本における高齢社会対策の現状と課題」
馮 文猛(中国国务院発展研究中心)「中国における高齢化社会対策の現状と課題」
水野 博達(大阪市立大学共生社会研究会/高齢者介護事業アドバイザー)
「介護保険制度は、政府の<介護責任免責の装置>」
聶 海松(東京農工大学)「中国における高齢者サービスの現状と課題—医療と連携した在宅養老・介護を中心に—」
コメンテーター 包 敏(東京医科歯科大学、鈴木未来(弘前大学)、
施 利平(明治大学)、林 明鮮(山東外事翻訳職業大学)

15:50～17:15 自由報告(I)

セッションA 英語セッション <会場>2-21(2号館2階)
司会：石井 健一 (文教大学)

1. Yu Xiaoyu (Graduate School of Agriculture, Kyoto University) “Who really counts to the firm? When capitalism is involved in Chinese land circulation”
2. Yang Feifan, Hao Ruofan (Tokyo University of Agriculture and Technology) “Research on the China’s elderly care system : Referring to the Community-based integrated care system in Japan”
3. Satoru YAMAZAKI (Hitotsubashi University, Doctoral student) “How do 3rd generation Chugoku Kikokusha experience their lives? ”

セッションB 中国語セッション <会場>2-22(2号館2階)
司会：唐 燕霞 (愛知大学)

1. 岸本 奈於(立命館大学大学院)「中国社会围绕 LGBT の话语 —使用 CDA 考察<<南

方周末」一」

2. 伍 嘉誠（長崎大學）「全球化下台灣土地公信仰的發展與轉變—以屏東縣車城福安宮福德正神聖誕為例」

17:25～18:25 総会 <会場> 2-11 (2号館1階)

18:30～20:00 懇親会 <会場> 生協2階オリザ
懇親会費：学生 3,000 円、一般 4,000 円

6月2日(日)

9:00～ 受付開始 (2号館1階ロビー)

9:15～10:55 自由報告(Ⅱ)

セッションC <会場> 2-21 (2号館2階)
司会：松木 孝文 (大同大学)

1. 和田 恭一 (東京農工大学大学院) 「SDGsの実践的取り組みと課題」
2. 王 鄒 (北海道大学大学院) 「蘇南農村における在宅訪問サービスの現状と役割およびその位置づけ—蘇州市呉江区Q鎮を事例に—」
3. 張 思宇 (関西学院大学大学院) 「中国における環境意識の変化」
4. DENG ERYING (鄧爾瑩) (京都大学大学院) 「中国のCSAの変容についての一考察—農業近代化との交錯から—」

セッションD <会場> 2-22 (2号館2階)
司会：奈倉 京子 (静岡県立大学)

1. 浅野 慎一 (神戸大学) 「中国残留日本人二世の生活史と越境的移動」
2. 坪田 光平 (職業能力開発総合大学校) 「タイガーマザー言説と「中国式」教育方法再考—日本における中国系第二世代の語りから—」
3. 王 曉音 (慶應義塾大学大学院) 「中国人高度人材の移動戦略—当事者へのインタビュー調査から—」

11:00～12:20 自由報告(Ⅲ)

セッションE <会場> 2-21 (2号館2階)
司会：中村 圭 (成城大学)

1. 陶 一然 (立命館大学大学院) 「戦時上海における新聞の役割と大衆社会—日本占領期における上海紙『申報』から見る大衆」
2. 華 金玲 (慶應義塾大学) 『移動』とメディア選択—中国移動通信メディア普及初期のメディア選択利用分析—
3. 陸 麗君 (福岡県立大学) 「新華僑のビジネスと地域コミュニティ」

セッションF

<会場> 2-22 (2号館2階)

司会: 賽漢卓娜(長崎大学)

1. 閻 美芳(宇都宮大学) 「一人っ子の都市移住による農家と農村の崩壊過程—中国山東省農村における生育制度の逆機能を焦点として—」
2. 孫 萌萌(大阪大学大学院) 「中国における養老事業セクターの従業員育成アプローチに関する考察—日本の経験を参考にする視点から—」
3. 林 明鮮(山東外事翻訳職業大学) 「日本と中国における都市高齢者の孤独感の比較」

セッションG

<会場> 多目的講義室 (2号館1階)

司会: 浅野慎一

(神戸大学)

1. 木下 みつひろ(敬和学園大学) 「1970年代における少数民族問題 - 『ポスト文化大革命』という観点から」
2. 若杉 英治(東京福祉大学) 「日本と中国の「田園回帰」の潮流とその決定要因の比較」
3. 沈 一擎(大阪大学大学院) 「宗教性と利他的傾向の日中比較—世界価値観調査に基づき—」

12:30~13:25 理事会

<会場> 本館 本-22

13:30~16:00 学会企画シンポジウム

<会場> 2-11 (2号館1階)

「社会主義的近代化推進期から転形期にかけての中国の女性、家族の変容」

司会: 坂部 晶子(名古屋大学)

報告者 鄭 楊(哈爾濱師範大学) 「中国都市家族における母親規範のロジック—専業主婦は高尚で、専業主婦は従属的」(日本語)

杜 平(南開大学) 「家族の紐帯と権力ゲーム—南中国における向都離村夫婦のジェンダー秩序の再構成」(中国語・論文の日本語訳あり)

阮 雲星(浙江大学)・金 明美(静岡大学) 「現代『宗族村落』を支える女性たち—福建省福州市義序における民俗宗教の事例に基づくジェンダー人類学的研究」

全 信子(延辺大学) 「ジェンダーの視点から見た朝鮮族女性の国際結婚研究」

コメンテーター: 首藤 明和(長崎大学)、賽漢卓娜(長崎大学)

16:00～ 閉会式

<会場> 2-11 (2号館1階)

大会担当理事挨拶：奈倉 京子 (静岡県立大学)

大会実行委員長挨拶：轟 海松 (東京農工大学)

次年度大会開催校挨拶

書籍展示コーナー	2号館1階ロビー
控室	2号館2階 2-23 (定員84名)
若林敬子先生展示コーナー	2号館5階 2N-508・509

■大会出欠確認のお願い

学会HPに特設ページが設置されますので、そこから入力をお願いいたします(メールマガジンでも入力のご案内を再度いたします)。パスワードが必要となりますが、HPに掲載されている学会ニューズレター閲覧の際のものと同じです。ご不明の場合は、事務局までお問い合わせください。開催校の準備のため、5月20日(月)までにご回答をお願いします。

■資料配布コーナー、書籍販売コーナー、研究機関紹介コーナーの設置のお知らせ

大会期間中に、上記のコーナーを設置いたします。会員の皆様の研究交流の場としてご利用下さい。場所は、当日、受付にお問い合わせください。なお、書籍販売にあたっては、受付での代金領収、領収書発行はいたしかねますので、予めご了承下さいますようお願いいたします。

■大会開催校の連絡先

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学 府中キャンパス 2号館 508号室 轟海松研究室

TEL&FAX: 042-367-5699

E-mail: nie-hs(at)cc.tuat.ac.jp

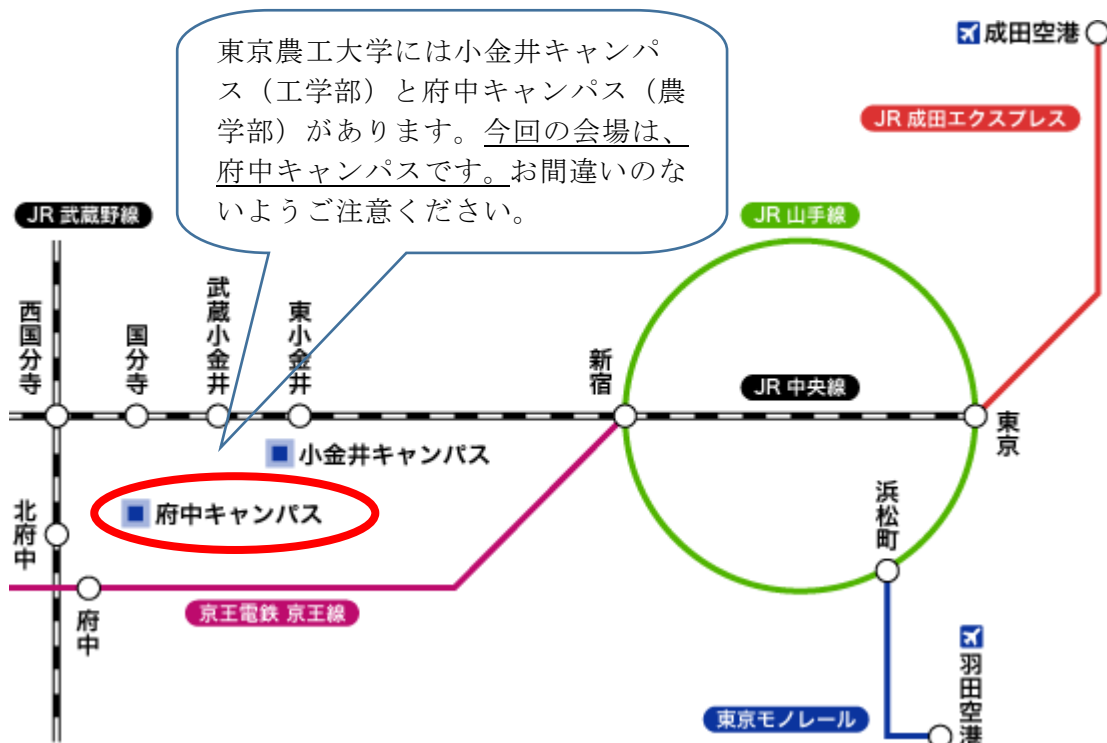
■大会日程及び開催場所

2019年6月1日(土)、2日(日) 東京農工大学(府中キャンパス)

会場アクセス

学会で用意した駐車場はございませんので、なるべく公共交通機関をご利用の上お越しください。お車でお越しになる場合は、南門に有料駐車場（タイムズ、1回駐車代500円）がございますので、そちらをご利用ください。

■ 府中キャンパスへの交通アクセス・路線図



○羽田空港から

モノレール：東京モノレール羽田空港駅から浜松町駅約 22 分

JR 山手線：JR 山手線（内回り）浜松町駅から東京駅約 5 分

JR 中央線：JR 中央線東京駅から国分寺駅約 34 分（特別快速利用）

バス：国分寺駅南口 2 番乗場「府中駅行」（明星学苑経由）約 10 分晴見町（農工大前）下車すぐ

○成田空港から

成田エクスプレス：成田空港から東京駅約 62 分（JR 特急成田エクスプレス利用）

JR 中央線：JR 中央線東京駅から国分寺駅約 34 分（特別快速利用）

バス：国分寺駅南口 2 番乗場「府中駅行」（明星学苑経由）約 10 分晴見町（農工大前）下車すぐ

■ 府中キャンパス周辺地図



○ JR 中央線「国分寺駅」から

バス：南口 2 番乗場

「【寺 91】府中駅行(明星学苑経由)」約 10 分「晴見町(農工大前)」下車すぐ

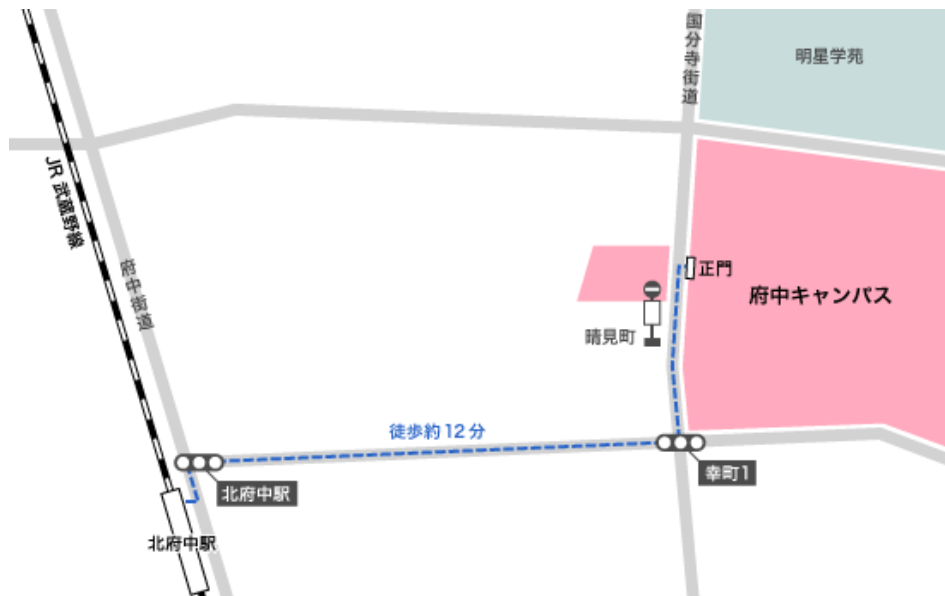
○ 京王線「府中駅」から

バス：北口バスターミナル 3 番乗場

「【寺 91】国分寺駅南口行(明星学苑経由)」約 7 分「晴見町(農工大前)」下車すぐ

○ JR 武蔵野線「北府中駅」から 徒歩約 12 分

■ 北府中駅から府中キャンパスへの経路



■ 府中キャンパスマップ

会場は、府中キャンパスの2号館（受付、自由報告、シンポジウム等）と本館（理事会）、福利厚生センターのオリザ（懇親会）です。



宿泊施設について

府中駅周辺

- (1) ホテルコンチネンタル府中（府中駅から徒歩1分、042-333-7111）
- (2) ホテルリブマックス府中（府中駅から徒歩5分、042-334-8811）
- (3) ホテルリブマックス府中アネックス（府中駅から徒歩5分、042-336-3131）
- (4) ホテルリブマックス北府中（北府中駅から徒歩13分、042-352-7770）
- (5) 府中アーバンホテル本館、別館（府中駅から徒歩2分、042-366-7777）
- (6) ホテル中央館（府中駅から徒歩3分、042-361-4065）
- (7) ビジネスホテルサンライト本館（府中駅から徒歩5分、042-360-3111）

国分寺駅周辺

- (1) JR東日本ホテルメッツ 国分寺（国分寺駅から徒歩1分、042-328-6111）
- (2) ビジネスホテルダイワ（国分寺駅から徒歩1分、042-324-5221）

【その他連絡事項】

・昼食については、土曜・日曜は大学内の食堂は閉まっていますので各自で持参されることをお勧めします。正門を出て右、国分寺街道を北進し信号を渡ったところに、コンビニエンスストアがあります。国分寺街道付近には、小さい飲食店も数か所あります。

・構内では、指定喫煙所（地図の*）以外での喫煙は禁止されています。禁煙にご協力ください。

■新入会員の声

王 鄢 (オウ エン)

所属：北海道大学農学院 (博士課程)
研究領域：中国農村部における高齢者福祉、家族扶養、在宅福祉サービス
自己紹介：中国出身です。これまで中国農村における高齢者の家族扶養と在宅福祉について研究を行ってきました。具体的には、高齢者扶養に対して、家族、地域と国がどのように対応するのかを考えています。

郝 若帆 (コ ルハン)

所属：東京農工大学大学院農学府国際環境農学専攻
研究領域：社会学、人口社会学
自己紹介：日中の高齢化対策に関心をもっており、長期介護保険制度について研究しております。

孫 萌萌 (ソン ボウボウ)

所属：大阪大学人間科学研究科 (中国・山東商業職業技術学院)
研究領域：(中国) 養老人材の育成、高齢者の社会福祉
自己紹介：中国におけるますます深刻となる高齢化問題をふまえて、日本の介護保険制度や介護人材の育成に関心を持っています。「老年サービスと管理学科」の学生が日本への研修項目を推進するとともに、関連研究をスタートしました。山東省教育庁の助成のもとで、大阪大学で招聘研究員として勉強・研究しています。

劉 罡 (リュウ コウ)

所属：名古屋大学人文学研究科文化動

態学博士課程

研究領域：満洲、引揚者、戦争体験
自己紹介：2014年に大連外国語大学卒業し、同年度10月に来日いたしました。博士前期課程に主に「引揚げ」における満洲表象について研究してきました。2017年4月に後期課程に進学し、今まで研究してきた内容を基礎とし、戦後引揚げをめぐる言説の競合を研究しております。

楊 非凡 (ヨウ ヒボン)

所属：東京農工大学大学院
研究領域：人口高齢化
自己紹介：中国東北部出身です。東京農工大学では、人口高齢化の問題を研究しています。

張 子蓉 (チョウ ショウ)

所属：首都大学東京人文科学研究科博士後期課程
研究領域：学校いじめ、学校問題
自己紹介：私は中学校時代に学校いじめを経験して、いやな思いをしました。そのため、学校いじめを研究して、その現象を解明するために力を注ぎたいと決心しました。日本と違って、中国で学校いじめがまだ十分認識されていません。そのため、中国の学校いじめに注目して、人々の関心を喚起したいと思います。

和田 恭一 (ワダ キョウイチ)

所属：東京農工大学大学院農学府農学専攻国際イノベーション農学コース
研究領域：持続可能な開発目標 (SDGs)
自己紹介：持続可能なまちづくりに関

心を持っており、SDGsに対する国と地方自治体の取り組みに関する研究を行っています。

岸本 奈於 (キシモト ナオ)

所属：立命館大学国際関係研究科

研究領域：ジェンダー

自己紹介：研究領域は現代中国のジェンダーで、現在は中国におけるLGBTを巡る言説について研究を行っています。よろしくお願ひ致します。

李 しゅ (リ シュ)

所属：中央大学文学研究科社会学専攻
博士後期課程

研究領域：家族間関係、世代間関係、
地域間格差

自己紹介：一億人を越えた人口集中地域である中国・河南省に生まれてきた私は、中国の中小都市に在住する高齢者と成人子の世代間関係について研究しています。日本では世代間関係について検証が十分進められていますが、中国では全国的に実地調査を行う事が困難であるため、先行研究は福祉や政策面に偏っています。都市や農村部を中心にした実証研究はありますが、まだまだ不十分だと考えています。これから、日中比較の視点から中国における地域間格差と世代間格差の問題について分析していきたいと考えています。

陳 予茜 (チン ヨセン)

所属：明治大学大学院

研究領域：家族社会学、ジェンダー

自己紹介：私は中国の一人っ子女性および一人っ子女性の母娘の関係性について研究しています。一人っ子女性は

「オブジェクト」として、一人っ子政策から大きな影響を受けてきましたが、成人して家族を作るに至り、一人っ子女性は「サブジェクト」として中国の家族、ジェンダーに変容をもたらしています。

■事務局からのお知らせ

■事務局からのお願ひ

メールマガジンは届いていますか？

本学会では、google グループによるメーリングリストによる広報を行っています。事務局へご登録いただいたメールアドレスへ、不定期に「日中社会学会メールマガジン」が配信されます。メールマガジンが届いていない方や未登録の方、また、メールアドレスに変更のあった場合は、事務局までお知らせください。

情報をお寄せください

会員の皆様で、出版物のご案内や研究会・シンポジウムの開催のご案内などがございましたら、事務局まで情報をお寄せください。

会費納入のお願ひ

学会活動は皆さまからの会費で支えられております。会費納入をよろしくお願ひいたします。一般会員 6000 円、学生会員 4000 円です。

大会にご参加の方々には、当日受付で2019年度の会費をいただきます。

日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801 加入者名：日中社会学会
加入者名：日中社会学会
*インターネットバンキング等、銀行からのお振込みの場合は、店名、口座番号は下記になります。

店名：〇一九店 店番：019 口座番号：0161801

*海外からは paypal での納入も可能になりました。詳細につきましては、事務局までお問い合わせください。

□異動、住所変更の際はご一報を！

新年度となり、異動、住所変更のあった方は、新しいご所属、メールアドレス、郵便物送付先等の情報を事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

日中社会学会ニューズレター No. 81

発行：日中社会学会事務局

〒186-8601 東京都国立市中2-1
一橋大学・南裕子研究室

Info(##) japan-china-sociology.org

tel: 042-580-8810 (研究室直通)

fax: 042-580-8799 (共同研究室のため南宛を明記してください)

○日中社会学会・郵便口座

口座記号番号：00140-9-161801

加入者名：日中社会学会

○日中社会学会・公式HP

<http://www.japan-china-sociology.org/>

編集：松木孝文（大同大学）

発行日：2019年5月